令和7年度（2025年度）豊中市立図書館来館者アンケート調査報告書

令和8年(2026年)7月

豊中市立図書館

1　調査の目的

豊中市立図書館の図書館評価システムは、平成17年（2005年）の図書館協議会の提言「これからの豊中市立図書館の運営のあり方」を受けて取組みを開始した。

情報の提供と、より客観的な評価手法によるサービス分析が必要であることから、自己点検評価と評価結果の公表が要請された。平成19年（2007年）の図書館協議会提言「豊中市立図書館における評価のあり方について（提言）」に基づいて、具体的な評価体系を構築し、自己点検評価と外部評価を実施している。

来館者アンケートは、豊中市立図書館のサービスが利用者にどの程度認知されているか満足されているか、さらに利用者のニーズ等を把握し、より一層のサービスの向上に取組むために行うものである。ここでは、全館単純集計結果のみ報告する。

2　調査の概要

期間：令和8年（2026年）2月 9日（月）から 2月 15日（日）

対象：豊中市立図書館の中学生以上の利用者（来館者）

母集団【令和6年度末　個人登録者数（12歳以上、不明除く）】 115,697

場所：豊中市立図書館（9館）

方法：選択式アンケート

回収：図書館内設置回収箱及びインターネット方式

質問項目：

基本属性	年齢、居住地
図書館の利用について	利用頻度 借出館と返却館（MA） 利用しやすさ（満足度、重要度） 図書館があることによる効果 蛍池図書館リニューアルについて 図書館の新サービスについての認知度
自由記述	

3　標本数

母集団を今回調査対象の12歳以上の登録者とした場合の有効回収率は54.8%であった。

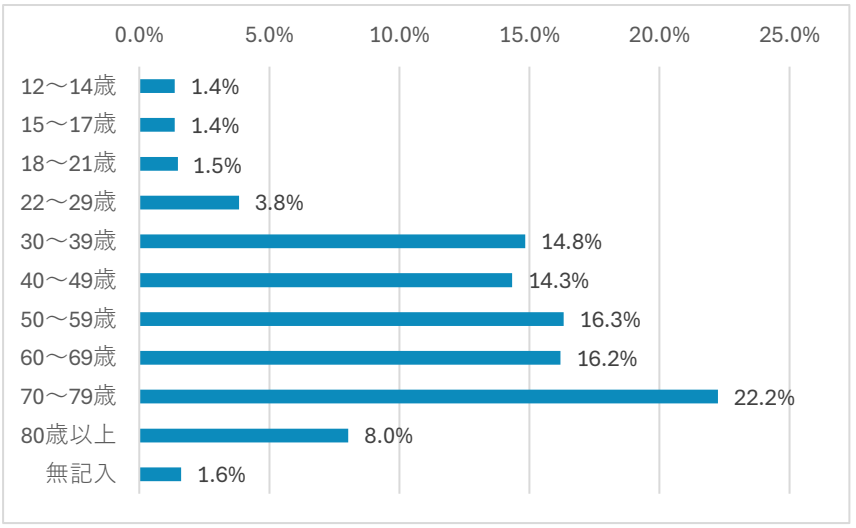
母集団	配布数	有効回収数	有効回収率
115,697人	1.500部	822部	54.8%

4　回答者属性

回答者の年齢、居住地区による比率は下記の通りであった。

A-1　年齢

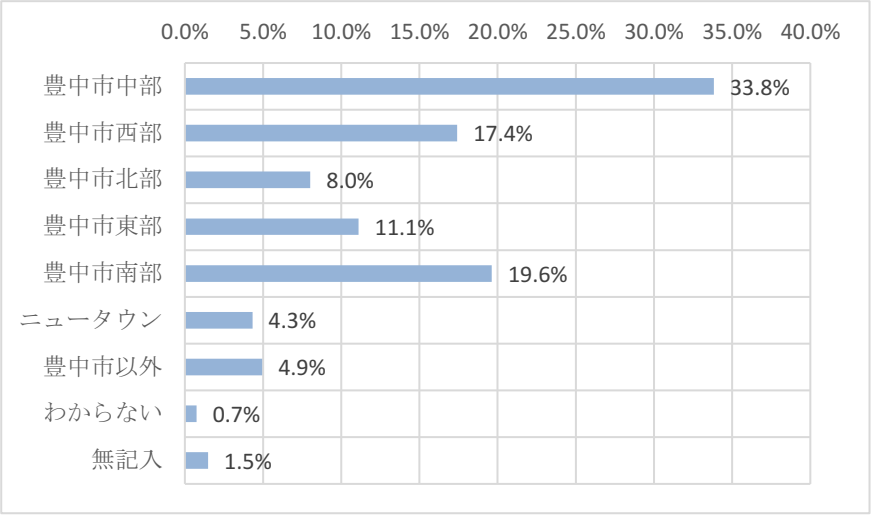
1	12-14 歳	11	1.4%
2	15-17 歳	11	1.4%
3	18-21 歳	12	1.5%
4	22-29 歳	31	3.8%
5	30-39 歳	120	14.8%
6	40-49 歳	116	14.3%
7	50-59 歳	132	16.3%
8	60-69 歳	131	16.2%
9	70-79 歳	180	22.2%
10	80歳以上	65	8.0%
11	無記入	13	1.6%
	回答数	809	
	総計	822	



全体では　回答者は70～79歳が22.2%で最も多く、60歳以上が全体の約半数を占めた。一方、20代以下の回答は少なく、来館者アンケートの結果は比較的高年齢層の意見を反映したものと考えられる。

A-2　地区

1	豊中市中部	274	33.8%
2	豊中市西部	141	17.4%
3	豊中市北部	65	8.0%
4	豊中市東部	90	11.1%
5	豊中市南部	159	19.6%
6	ニュータウン	35	4.3%
7	豊中市以外	40	4.9%
8	わからない	6	0.7%
9	無記入	12	1.5%
	回答数	810	
	総計	822	

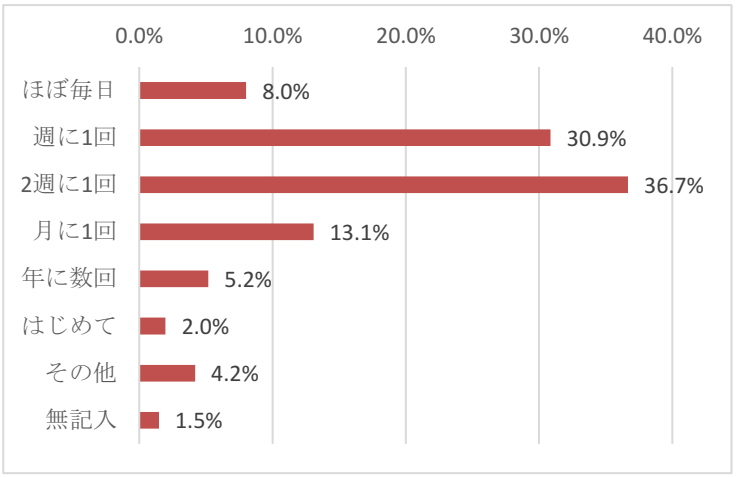


回答者の居住地区は豊中市中部が33.8%で最も多く、次いで南部19.6%、西部17.4%となった。各地域から幅広い回答が得られているものの、立地条件や利用館の違いによる影響も考慮する必要がある。

5　調査の結果（全館単純集計）

5.1　利用頻度に関する調査

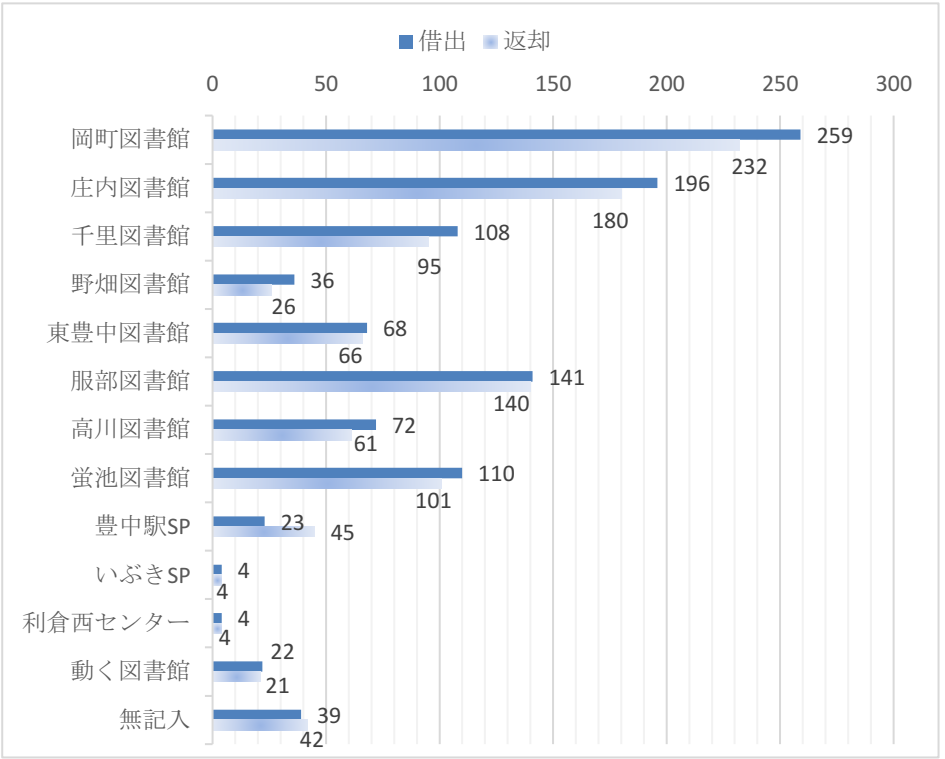
1	ほぼ毎日	65	8.0%
2	週に 1 回程度	250	30.9%
3	2 週間に 1 回程度	297	36.7%
4	月に 1 回程度	106	13.1%
5	年に数回程度	42	5.2%
6	はじめて	16	2.0%
7	その他	34	4.2%
	無記入	12	1.5%
	回答数	810	
	総数	822	



「2週間に1回程度」が36.7%で最も多く、「週に1回程度」（30.9%）を合わせると約3分の2を占めた。定期的な利用者が中心であり、図書館が継続的に利用される身近な施設として定着していることがうかがえる。

5.2　借出館と返却館（複数回答可）に関する調査

	借出	返却
岡町図書館	259	232
庄内図書館	196	180
千里図書館	108	95
野畑図書館	36	26
東豊中図書館	68	66
服部図書館	141	140
高川図書館	72	61
蛍池図書館	110	101
豊中駅SP	23	45
いぶきSP	4	4
利倉西センター	4	4
動く図書館	22	21
無記入	39	42



借出館、返却館ともに岡町図書館の利用が最も多く、全体として貸出と返却の利用状況に大きな差はみられなかった。一方、豊中駅図書サービスポイントは返却利用が貸出利用を上回っており、駅前立地を生かした利便性の高い返却拠点として活用されていることがうかがえる。

5.3　利用のしやすさに関する調査

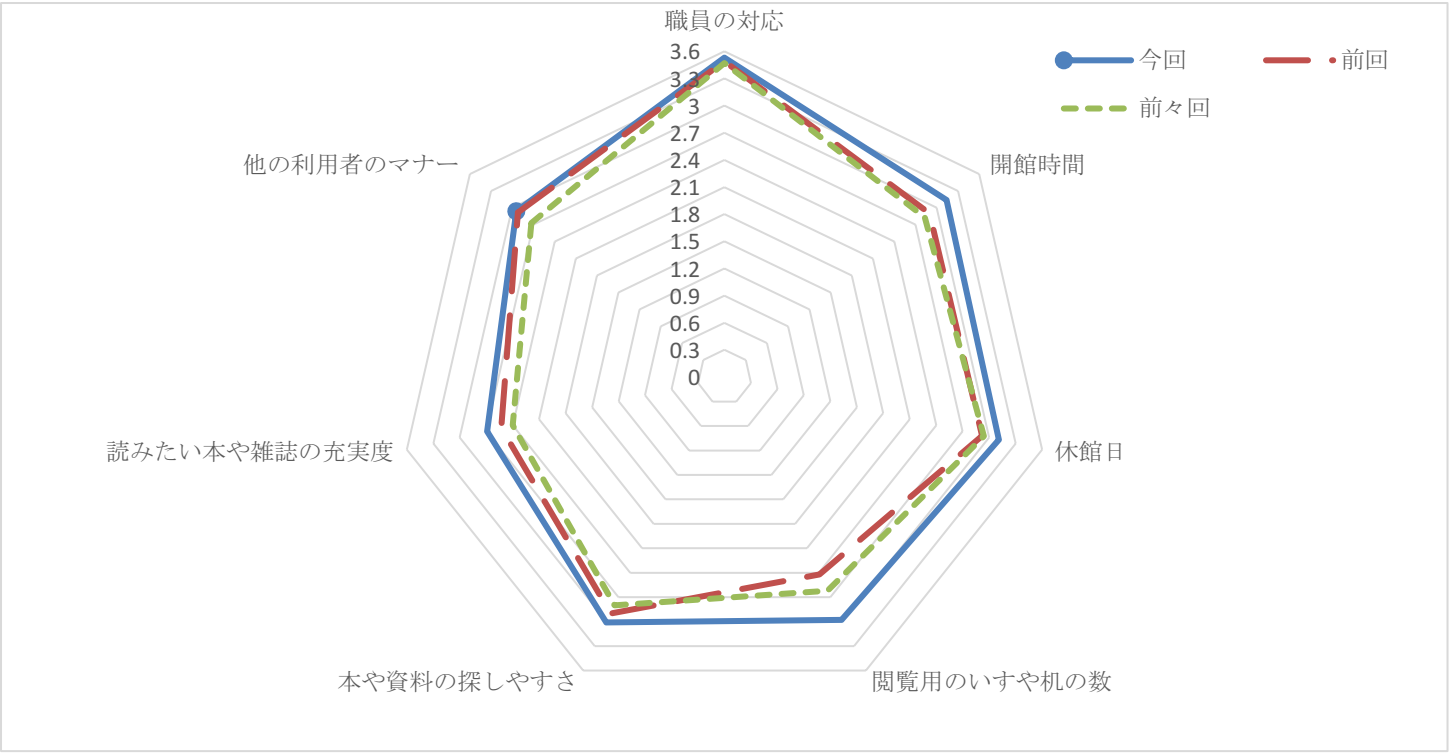
図書館の利用のしやすさについて、「職員の応対」、「開館時間」、「休館日」、「閲覧用のいすや机の数」、「本や資料の探しやすさ」、「読みたい本や雑誌の充実度」、「他の利用者のマナー」、7つの項目について、満足度を調査した結果が次頁の表である。単なる満足度ではなく、その項目が回答者にとってどの程度重要度をもっているかを同時に問うことにより、個別の問題点の要望度を推測する助けとした。

満足度および重要度は、それぞれの点数に回答率を乗じて、その平均値を算出した。各選択肢に与えられた点数は、満足グループと不満足グループとの差がある程度明確になるように「どちらかといえば満足」と「どちらかといえば満足していない」との間に2点差を設け、「おおいに満足している」に4点、「どちらかといえば満足している」に3点「どちらかといえば満足していないが1点、「全く満足していない」に0点とした。

利用しやすさに関する全ての項目で満足度は前回を上回った。特に「閲覧用のいすや机の数」は前回2.42から2.98へ大きく上昇しており、施設環境の改善が利用者にも評価されていることがうかがえる。

「読みたい本や雑誌の充実度」は重要度3.80と全項目中で最も高い一方、満足度は2.69にとどまった。引き続き資料収集や予約サービスの充実に対する利用者の期待が大きいことが示されている。

	あなたは満足していますか						あなたにとって重要ですか				
	1	2	3	4			1	2	3	4	
	おおいに満足している（4点）	どちらかといえば満足（3点）	どちらかといえば満足していない（1点）	全く満足していない（0点）	無回答	満足度（4点満点）	重要である（4点）	重要でない（0点）	どちらでもない）	無回答	重要度（4点満点）
職員の応対について	483	296	15	8	20	3.53	378	36	111	297	3.65
開館時間について	306	394	77	15	30	3.14	361	58	104	299	3.45
休館日について	289	405	72	19	37	3.11	318	76	127	301	3.23
閲覧用のいすや机の数について	266	388	109	20	39	2.98	298	94	129	301	3.04
本や資料の探しやすさについて	233	447	97	10	35	3.01	404	29	85	304	3.73
読みたい本や雑誌の充実度について	178	407	175	23	39	2.69	442	23	53	304	3.80
他の利用者のマナーについて	212	456	92	24	38	2.94	351	48	123	300	3.52



満足度経年変化

	今回	前回	前々回	前々々回
職員の対応	3.53 (88.0%)	3.49 (87.3%)	3.47 (86.8%)	3.36 (84.0%)
開館時間	3.14 (78.5%)	2.90 (72.5%)	2.83 (70.8%)	2.67 (66.8%)
休館日	3.11 (77.8%)	2.92 (77.8%)	2.94 (73.5%)	2.69 (67.3%)
閲覧用のいすや机の数	2.98 (74.6%)	2.42 (60.5%)	2.62 (65.5%)	2.51 (62.8%)
本や資料の探しやすさ	3.01 (75.2%)	2.90 (72.5%)	2.80 (70.0%)	2.73 (68.3%)
読みたい本や雑誌の充実度	2.69 (67.2%)	2.53 (63.3%)	2.40 (60.0%)	2.21 (55.3%)
他の利用者のマナー	2.94 (73.5%)	2.92 (73.0%)	2.73 (68.3%)	2.57 (66.8%)

「職員の応対」は満足度3.53、重要度3.65とともに高い水準を維持しており、図書館サービス全体に対する信頼や満足感を支える重要な要素と考えられる。

満足度の経年変化を見ると、全項目で前回以上の水準となった。特に開館時間、休館日、閲覧環境に関する項目の改善幅が大きく、施設運営面に対する評価の向上がみられる。

5.4　図書館があることによる効果（インパクト）

B-4の11項目について見ると、「自分の世界（知識や視野）が広がったと感じる」「ワクワクしたり感動したりすることがある」「気持ちがリフレッシュする」など、知的・感情的な側面で特に肯定的な回答が多かった。一方、社会的・対人的な側面に関する設問では肯定的回答の割合が相対的に低く、利用者によって評価が分かれる傾向がみられた。

知識や情報の獲得、思考の深化、視野の拡大に関する項目では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答が概ね8割前後を占めた。図書館が学びや知的探究を支える場として利用者に認識されていることがうかがえる。

感情的な側面についても肯定的回答が8割程度を占めており、図書館が資料提供の場であるだけでなく、気分転換や心の充足感を得られる居場所としての機能を果たしていることがうかがえる。

「自分とは違う生き方や考え方に触れることができる」についても肯定的回答が76.1%となっており、図書館資料や情報との出会いを通じて、多様な価値観に接する機会が提供されていることが示された。

B-4-8～10では肯定的回答が最も多いものの、他の設問ほど肯定的回答が突出しておらず、否定的回答や「わからない」の割合も比較的高かった。図書館の知的・感情的な効果については広く認識されている一方で、地域とのつながりや交流の創出といった社会的機能については利用者の受け止め方にばらつきがみられ、評価が拮抗する結果となった。特に「他の人との対話や、新しい交流のきっかけが生まれる」は否定的回答が肯定的回答を上回っており、交流の場としての認識は限定的であることがうかがえる。

		A	B	C	D	E	G	
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	全く思えない	わからない	無回答	
1	日常を離れて、読書や考え事に集中できる	337	322	62	9	32	60	822
	全体に対する割合	41.0%	39.2%	7.5%	1.1%	3.9%	7.3%	
2	本の世界を楽しんだり、新しいアイデアが浮かんだりする	305	333	73	11	36	64	822
	全体に対する割合	37.1%	40.5%	8.9%	1.3%	4.4%	7.8%	
3	物事をいろいろな角度から深く考えるきっかけになる	324	331	61	4	42	60	822
	全体に対する割合	39.4%	40.3%	7.4%	0.5%	5.1%	7.3%	
4	自分の世界（知識や視野）を広がったと感じる	383	323	29	3	23	61	822
	全体に対する割合	16.0%	18.7%	2.9%	0.4%	31.4%	11.7%	
5	ワクワクしたり、感動したりすることがある	356	309	52	12	31	62	822
	全体に対する割合	43.3%	37.6%	6.3%	1.5%	3.8%	7.5%	
6	図書館に来ると、気持ちがリフレッシュする（気分転換になる）	357	297	64	12	32	73	822
	全体に対する割合	43.4%	36.1%	7.8%	1.5%	3.9%	7.3%	
7	自分とは違う生き方や考え方に触れることができる	304	321	74	13	51	59	822
	全体に対する割合	37.0%	39.1%	9.0%	1.6%	6.2%	7.2%	
8	地域の人々の気配やつながりを感じ、安心感がある	140	312	172	32	103	63	822
	全体に対する割合	17.0%	38.0%	20.9%	3.9%	12.5%	7.7%	
9	他の人との対話や、新しい交流のきっかけが生まれる	106	210	243	84	117	62	822
	全体に対する割合	12.9%	25.5%	29.6%	10.2%	14.2%	7.5%	
10	新しい趣味や活動を始めるきっかけが得られる	211	356	113	28	55	59	822
	全体に対する割合	25.7%	43.3%	13.7%	3.4%	6.7%	7.2%	
11	日々の暮らしや悩みごとの解決に役立つ情報が見つかる	244	379	75	17	47	60	822
	全体に対する割合	3.0%	6.3%	1.1%	0.3%	41.2%	14.6%	

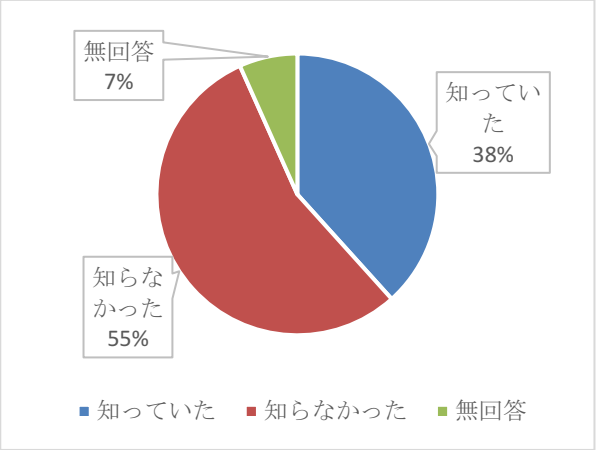
以上のことから、図書館は知識の習得や読書体験の充実、気分転換など、個人の学びや成長を支える場として高く評価されていることがわかった。一方で、人と人との交流や地域とのつながりに関する項目では評価が分かれており、利用者の多くは図書館を交流の場というよりも、個人の活動や学びの場として認識している傾向がみられた。

5.5　蛍池図書館のリニューアルについて

中央館構想の認知度について尋ねた。

知っているが利用したことがあるは.2%であった。

知っていた	38.3%
知らなかった	55%
無記入	6.7%

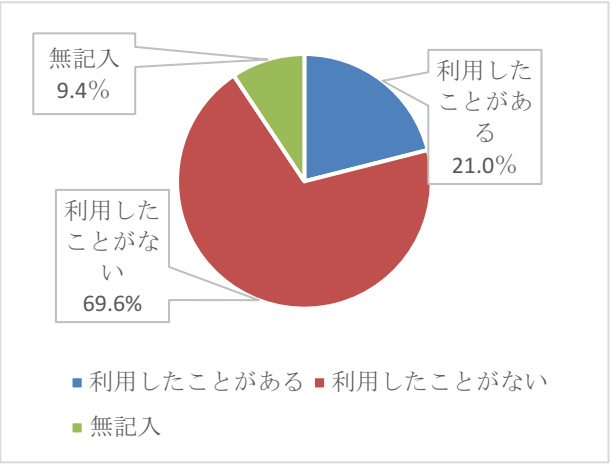


蛍池図書館のリニューアルについては38.3%が「知っていた」と回答した。

一方で過半数が「知らなかった」と回答しており、今後も広報や情報発信の強化が課題と考えられる。

リニューアル後の利用については

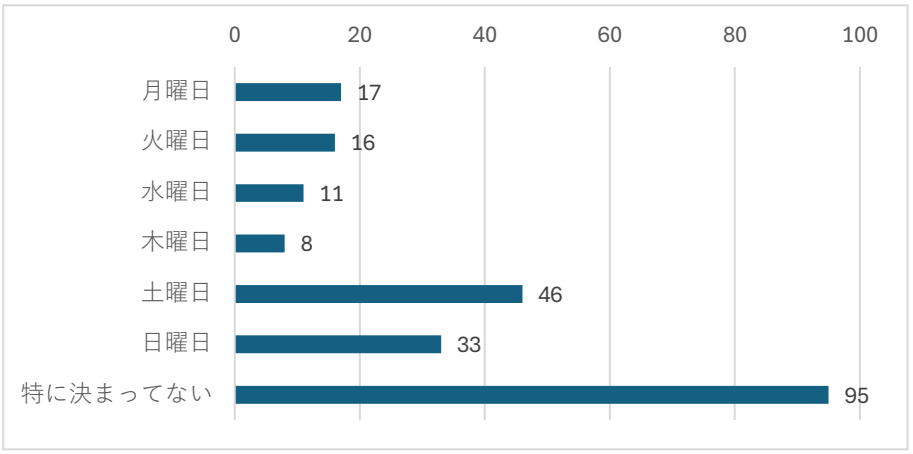
利用したことがある	26.2%
利用したことがない	69.2%
無記入	4.6%



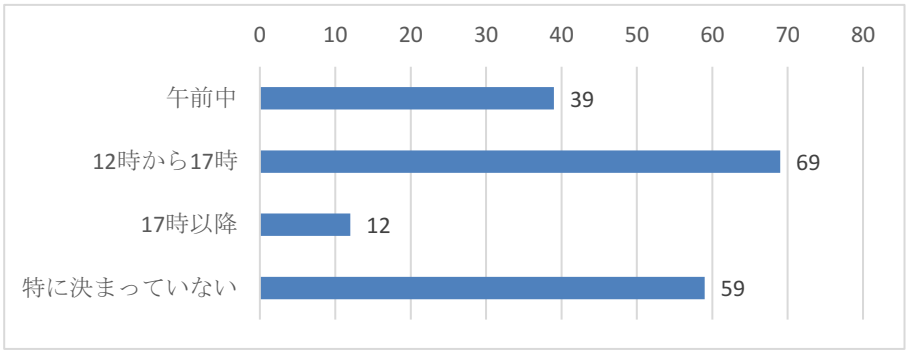
リニューアル後の利用については「利用したことがない」が約7割を占めた。認知は一定程度進んでいるものの、利用促進のためにはイベントや展示等を通じた来館機会の創出が求められる。

「来館する曜日・時間帯」、来館目的（複数回答可）

月曜日	17
火曜日	16
水曜日	11
木曜日	8
土曜日	46
日曜日	33
特に決まっていない	95



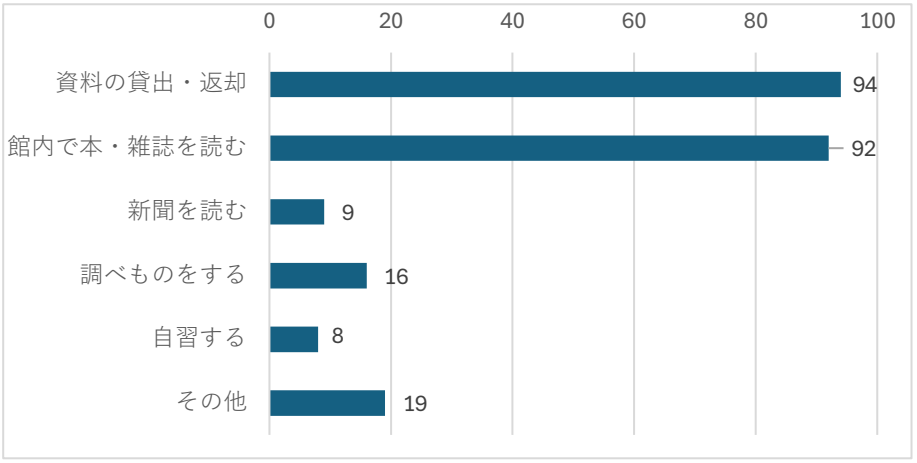
午前中	46
12時から17時	45
17時以降	27
特に決まっていない	147



来館する曜日は土曜日が最も多く、次いで日曜日となった。また，「特に決まっていない」とする回答も多く、利用者の生活スタイルに応じた柔軟な利用が行われていることがうかがえる。

来館時間帯では「特に決まっていない」が最も多く、固定的な利用時間よりも、その時々の都合に応じた利用が中心となっていることが分かる。

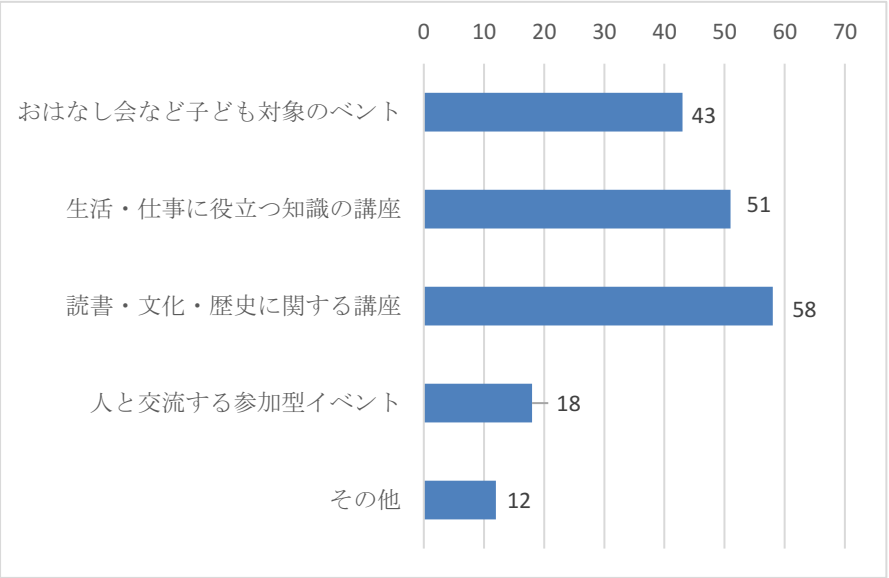
資料の貸出・返却	17
本・雑誌を読む	16
新聞を読む	11
調べ物をする	8
自習する	46
その他	33



来館目的は資料の貸出・返却や読書が中心であり、図書館の基本機能に対する需要の高さが確認され

た。一方で調べものや自習利用も一定数みられ、多様な利用目的に対応していることがうかがえる。

おはなし会など子ども対象のベント	43
生活・仕事に役立つ知識の講座	51
読書・文化・歴史に関する講座	58
人と交流する参加型イベント	18
その他	12



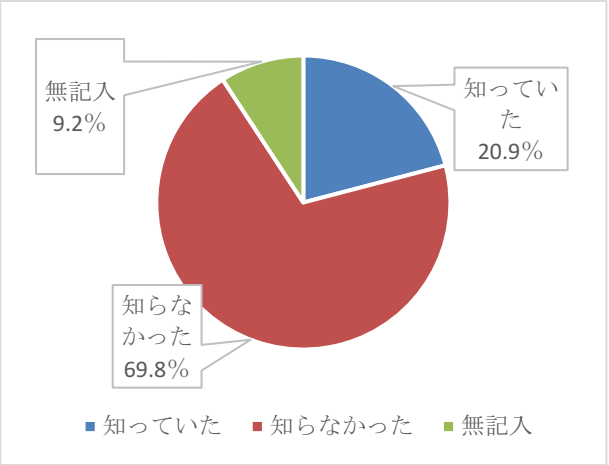
今後参加したいイベントでは、「読書・文化・歴史に関する講座」や「生活・仕事に役立つ知識の講座」への関心が高かった。一方「人と交流する参加型イベント」は比較的少なく、利用者は交流そのものよりも知識や学びを得る機会を求める傾向がみられる。

5.6　新しいサービスの認知度について

最後に、前回の来館者アンケート以降図書館で新たに実施しているサービスについて認知度を尋ねた。

図書館で一時保育

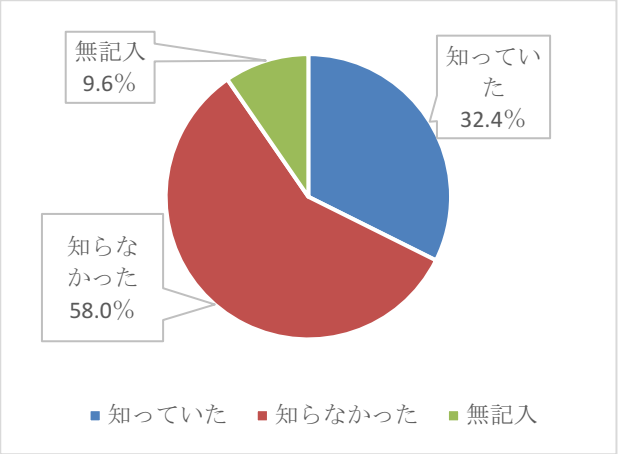
知っていた	20.9%
知らなかった	69.8%
無記入	9.2%



図書館で実施する一時保育サービスについては約7割が「知らなかった」と回答した。子育て世代の利用促進につながる可能性があることから、対象者への効果的な周知が課題と考えられる。

豊中駅図書サービスポイント

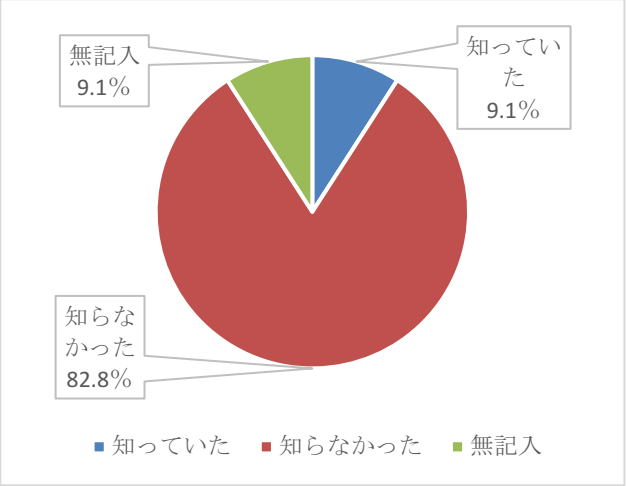
知っていた	32.4%
知らなかった	58.0%
無記入	9.6%



豊中駅図書サービスポイントについては認知率が3割程度にとどまり、依然として利用者への浸透が十分とはいえない結果となった。利便性向上策として、更なる周知活動が求められる。

東豊中もぐもぐ広場

知っていた	9.1%
知らなかった	82.8%
無記入	9.1%



東豊中もぐもぐ広場については認知率が1割に満たず、今回調査項目の中でも特に認知度が低かった。利用対象者やサービス内容を含めた情報発信方法の検討が必要である。